

愛成学園のスノーマン

【もっともっと素直に、優しく、人に甘えたい】

2001.11

愛成学園施設長 片山 泰伸

晩秋から冬支度を迎える頃がやってきました。そのうちに北風も吹き始め、暖かさが待ち遠しくなってしまう時を過ごすことになります。時には、雪も散らつく事があります。雪も降り積もれば、雪だるまを作る子供たちが賑やかです。『きみの空から』の原稿を編集委員のスタッフから依頼を受けるのも、これで4回目になります。4回目ともなると自分のキャバを越えてしまい、同じ様なことを書き並べていることに自己嫌悪を覚えるようになりました。

これまでの3回は、学園に対する想いであるとか、学園の今後の方向性であるとか、少し背伸びをしたところで書いていたような気がします。今回は、それを無しにして、あるがままの自分で書いてみたいと考えました。

新しい学園作りは、スタッフにとっては、本当に北風に似たものではなかったでしょうか。コートに身を包み込んだようになってしまったり、北風のような言葉を口にしてみたり。見えない将来がさらに、コートを二重にも三重にもしてしまいました。

まして、そこに登場した施設長は、まるで『ス

ノーマン』のように、雪だるま式に次々と難題を増やし続け、いつになったら『お日さま』が当たるのだろう。そんな日常ではなかったでしょうか。さらに、『基礎構造改革』『措置から契約』『シフトを地域に』といった流れが、目の前に迫ってきています。いつになったら、太陽と出会えるのか。

北風に身を包みすぎていると、自分たちの進めてきたことが見えなくなっています。ここでこう書いてしまうと、奥ゆかしさから縁遠い話しになりますが、それでも確認の意味で記しておきます。

生活寮の開設。『くりっく』の開所。『ハミングバード』の開設。ボランティアの導入。ハワイ旅行。おふる場の改修。しおん寮階段の改修。新しい保護者会ができました。自活訓練事業の認可。ホームヘルプ事業の委託。ガイドヘルプ事業の委託。地域行事への参加。サークル活動への繋がり。地域町会の祭りへ参加。等々。

僅かの間に、これだけの成果を上げることが出ています。それこそ、愛成学園が単に学園の利用者だけでなく、地域の福祉資源としての

『お日さま』になろうとしていることです。

豊富な人材でいっぱいの理事会。色んなヒントを示してくれる評議委員。いつも暖かく学園を支援してくれる地域の人・ボランティアの存在。学園の周囲は、『お日さま』で囲まれています。スタッフの理解と働きによっては、さらに強固な運営が出来る学園になります。その為には、その『お日さま』の暖かさを知ることだと思います。『スノーマン』も、自らが北風になったり、北風の中に居てしまうと、いつまでも雪だるまで終わってしまう。『お日さま』によって、その暖かさで雪だるまが溶けていく。難題が解けてゆくそんな時も見えてきています。もちろん、メンバー一人一人も『お日さま』に。スタッフも『お日さま』に。保護者の方達も。再度書いてしまいましたが、学園は、本当に多くの『お日さま』に恵まれています。もっともっとこの事実を実感できれば、キット今以上に優しさを素直に表現できる集団になります。利用者が一番よく知っている。事実を事実として知ること。

メンバーにおいていられないためにも。古い船を今動かすのは、古い水夫じゃないだろう。